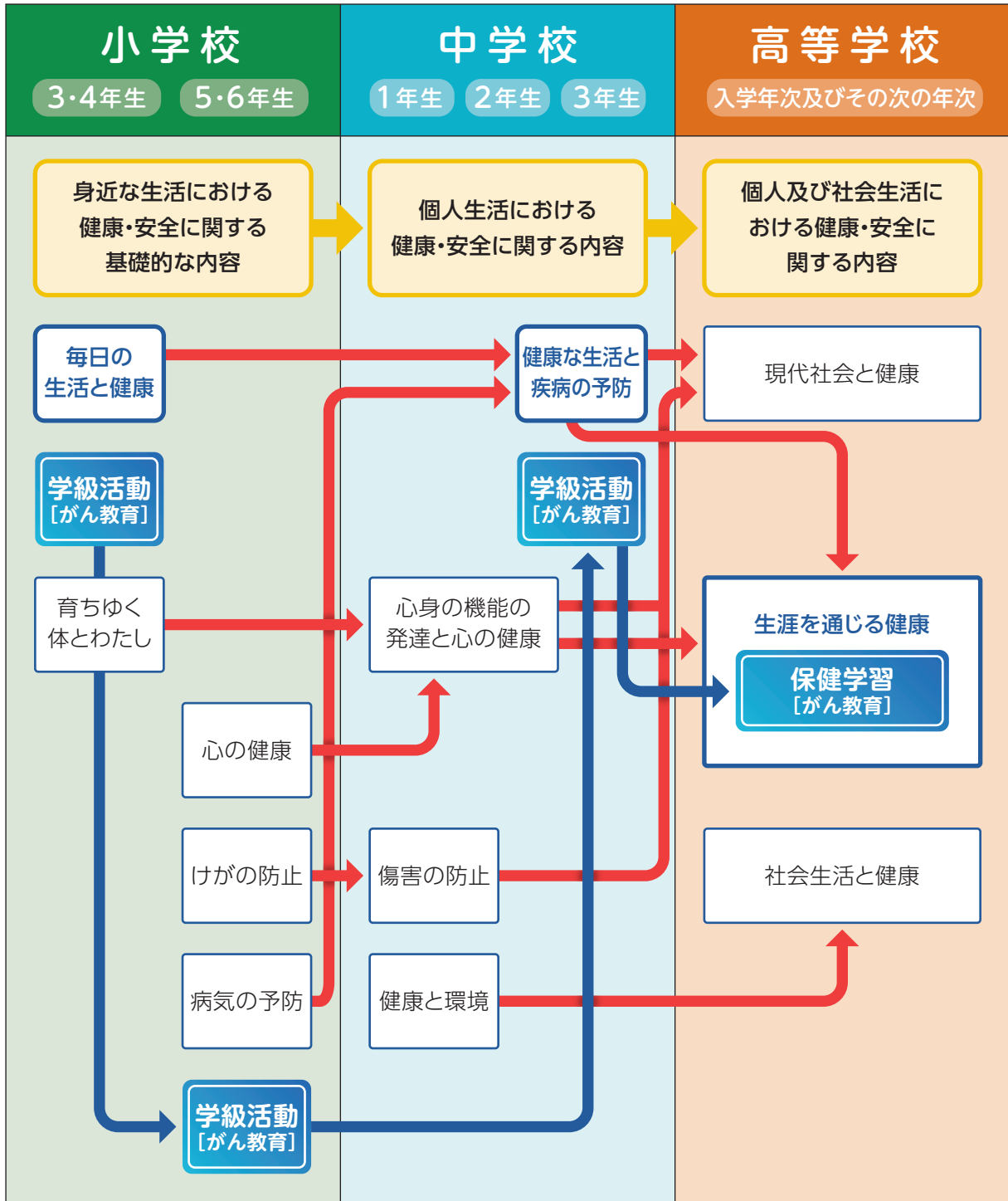




学習指導要領に関する資料

1 がん教育と保健学習内容の系統性

効果的ながん教育を実施するためには、現行の学習指導要領に基づき、小中高等学校の保健学習を踏まえて、がん教育を行う必要があります。



(参考:「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き/文部科学省)

2 特別活動・学級活動におけるがん教育の関連性

1 小学校

| 小3年生・小6年生：特別活動・学級活動 | |
|---------------------|---|
| 目標 | 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。 |
| 内容 | 3年生 学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行う。 |
| | 6年生 学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常生活や学習に主体的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行う。 |
| 共通 | <p>(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全</p> <p>カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成</p> <p>児童が自分の健康状態について、関心をもち、身近な日常生活における健康の問題を自ら見付け、自分で判断し、処理できる能力や態度を育成する。</p> |

2 中学校

| 中3年生：特別活動・学級活動 | |
|----------------|--|
| 目標 | 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。 |
| 内容 | <p>(2) 適応と成長及び健康安全</p> <p>人間の諸活動の基礎となる健康安全や食を中心として、現在及び将来において生徒が当面する諸課題に対応するとともに、生徒自ら健全な生活態度や習慣の形成をはかっていく資質や能力を育成する。</p> <p>キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</p> <p>生徒の学年や発達の段階も踏まえて題材を設定し、身近な視点からこれらの問題を考え意見を交換できるような話合いや討論、実践力の育成につながるロールプレイングなどの方法を活用して展開していくことが考えられる。こうした活動を通して、自らの健康状態について理解と関心を深め、望ましい生活態度や習慣の形成をはかっていくことが望まれる。</p> |

3 高等学校保健体育編・体育編におけるがん教育の関連性

| 高2年生：保健体育科 科目保健 | |
|-----------------|---|
| 目標 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 |
| 内容 | <p>(2)生涯を通じる健康</p> <p>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らはこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <p>生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要である。</p> |

4 各教科とがん教育の関連性

1 小学校

| 教科 | 内容 |
|----------|--|
| 体育・保健体育科 | 保健領域：第3学年 (1) 毎日の生活と健康 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。 ア 心や体の調子が良いなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること。 イ 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。 |
| | 保健領域：第6学年 (3) 病気の予防 病気の予防について理解できるようにする。 ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こること。 イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。 ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。 オ 地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。 |
| 家庭科 | 第5学年 B 日常の食事と調理の基礎 (2) 栄養を考えた食事 ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。 食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもち、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるようにする。 |
| 理科 | 第4学年 B 生命・地球 (1) 人の体のつくりと運動 人や他の動物の体の動きを観察したり資料を活用したりして、骨や筋肉の動きを調べ、人の体のつくりと運動とのかかわりについて考えをもつことができるようにする。 |
| | 第5学年 B 生命・地球 (2) 動物の誕生 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長について考えをもつことができるようにする。 |
| | 第6学年 B 生命・地球 (1) 人の体のつくりと働き 人や他の動物を観察したり資料を活用したりして、呼吸、消化、排出及び循環の働きを調べ、人や他の動物の体のつくりと働きについて考えをもつことができるようにする。 |
| 道徳 | 第1学年及び第2学年 1 主として自分自身に関すること。 (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。 (1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。 |
| | 第3学年及び第4学年 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。 (1) 生命の尊さを感じ取り、生命のあるものを大切にする。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。 |
| | 第5学年及び第6学年 1 主として自分自身に関すること。 (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 |

2 中学校

| 教科 | 内容 |
|----------|--|
| 体育・保健体育科 | <p>保健領域：第3学年</p> <p>(4) 健康な生活と疾病の予防 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。</p> <p>ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかわり合って発生すること。</p> <p>イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。</p> <p>ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>エ 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。</p> <p>オ 健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医療費は、正しく利用すること。</p> <p>カ 個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取り組みと密接なかわりがあること。</p> |
| 家庭科 | <p>第1学年</p> <p>B 食生活と自立</p> <p>(1) 中学生の食生活と栄養</p> <p>ア 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。</p> <p>イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について知ること。</p> |
| 理科 | <p>第2分野：第3学年</p> <p>(5) 生命の連続性 身近な生物について観察、実験を通して、生物の成長と殖え方、遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性について認識を深める。</p> <p>ア 生物の成長と殖え方</p> <p>イ 遺伝子の規則性と遺伝子</p> |
| 道徳 | <p>1 主として自分自身に関すること。</p> <p>(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること。</p> <p>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> |

3 高等学校

| 教科 | 内容 |
|------|--|
| 保健体育 | <p>保健：第1学年</p> <p>(1) 現代社会と健康</p> <p>我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。</p> <p>ア 健康の考え方 イ 健康の保持増進と疾病の予防</p> |
| | <p>保健：第2学年</p> <p>(2) 生涯を通じる健康</p> <p>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>ア 生涯の各段階における健康 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (ア) 我が国の保健・医療制度 (イ) 地域の保健・医療機関の活用 ウ 様々な保健活動や対策</p> |
| 家庭 | <p>家庭基礎：第1学年・第2学年</p> <p>(2) 生活の自立及び消費と環境</p> <p>ア 食事と健康</p> |
| 理科 | <p>生物基礎：第1学年</p> <p>(1) 生物と遺伝子</p> <p>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。</p> <p>イ 遺伝子とその働き</p> <p>(2) 生物の体内環境の維持</p> <p>生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。</p> <p>ア 生物の体内環境</p> |
| | <p>理科「生物」：第2学年・第3学年</p> <p>(1) 生命現象と物質</p> <p>生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探求し、たんぱく質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえさせる。</p> <p>ウ 遺伝情報の発現</p> |